感染症流行とオンライン・ディスコースの連関に見る病の「意味」の生成
―SNS における投稿とコメントの分析から―

木場安莉沙(名古屋文理大学)　張応謙(大阪大学大学院生)

1. はじめに

本研究は 2021 年から筆者らが行っている継続研究の一環であり，イングランドに拠点を置く動物保護団体の SNS アカウントにおける投稿および投稿へのコメントを対象として談話分析を行うものである．筆者らはこれまで当該アカウントから 590 件の投稿と各投稿あたり 11,236 件のコメントを収集し，van Dijk (1993) が提唱する批判的談話分析の観点に基づいて，データから以下の傾向がみられることを明らかにしている．(1)投稿およびコメントの内容はしばしば西洋中心主義的ディスコースと結び付いており，特に非西洋圏での動物虐待を批判するコメントには，その地域の文化や民族に対するヘイトスピーチが含まれることが多い（木場，張 2022; 2023)．(2)特にアジア圏での動物虐待事例に関するコメントでは，当該事例を新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）と関連付けたものが多い．(2)は特に，COVID-19 に関するメディア報道数が世界的に多かった（Pearman et al. 2021）2020 年 3 月から 5 月のデータに強く見られる傾向である．

一方，イギリスでは 2020 年 9 月にケント州にて新型コロナウイルスの変異型「アルファ型」が最初に特定され，その後同年 12 月から翌年 5 月にかけてイギリス国内ではこのアルファ型が支配的であったとされる（BBC, 2021; Flower et al. 2023)．では，先述のパンデミック初期 (2020 年 3 月から 5 月；時期①）とこのアルファ型流行前後 (2020 年 12 月から 2021 年 5 月； 時期②）それぞれの期間における投稿とコメントを比較した場合，傾向の違いは表れるであろうか．換言すると，新型コロナウイルスの「発祥地」とみなされる地域の違いによって，投稿やコメントの書き手の反応は異なるだろうか．これをリサーチ・クエスチョンとして，本稿では，各変異型の流行時期によって投稿およびコメントの書き手により（再）生産されるオンライン・ディスコースの様相がどのように異なるのかを明らかにする．分析は筆者らが批判的談話分析の手法を用いて行い，投稿内容と各投稿への直近 30 件程度のコメントから，新型コロナウイルスに関する議論が含まれるものの中で，民族や国についての言及が見られるものを抽出した．時期②については，2020 年 12 月時点では当該アカウントの投稿が比較的多かったものの，その後は COVID-19 に触れた投稿及び投稿数自体が大幅に減少したことから，効率的にデータの傾向の変化を追うため，データ収集月を一か月ずつおいて 1，3，5 月のみ収集した．

2. データ例

まず，上記①②の時期におけるデータの傾向を概観しておきたい．①はデータ総数が大きいだけでなく，民族／人種や感染症に関する投稿・コメントが，②と比べ極めて多い．一方，②では 2020 年 12 月～翌年 1 月のデータ数は大きいものの，その後 3，5 月にかけて投稿・コメント数ともに激減する．また，民族／人種及び感染症に言及した投稿・コメントも全体的に減少し，特に 2020 年 12 月の後半では殆ど見られないが，翌月に再び増加する．

時期①におけるコメントの内容には，大別して以下の 3 つの傾向が見られた．(1)中国及びアジア全域を"spreader"と位置付けるもの．(2)COVID-19 を「罰／天罰」として位置付けるもの．(3)ウイルスが人工のものであるとするもの．ただし(2)については，投稿内容がどの地域に関連するかによって，「罰」の対象が異なった．以下で傾向別にデータを見ていく．

下記の例は，ノルウェーの捕鯨を批判する投稿へのコメントである．(スペース等全て原文ママ)

---

① (1)-a (2020 年 4 月 1 日)
WTF? - who eats whale? I can guess.....<u>the east is proving to be the scourge of the earth</u>, not only by killing, eating and torturing all wildlife out of existence but <u>by spreading pandemics to the rest of humanity</u>.

投稿ではノルウェー以外の国名・地域名は言及されていないにも関わらず，"the East"が批判の矛先となり，"the rest of the humanity"に対して伝染病を蔓延させる元凶として位置付けられている．(1)-b は，WHO が中国に対しウェットマーケッ

トの閉鎖を求めたことに関する投稿へのコメントである.

---

① (1)-b (2020年4月14日)
Bunch of sick bastards. Eating cats and dogs,bats rodents. This is why more than 1/2 of all diseases come from asia

---

(1)-aと同様，アジア全域が批判の矛先となっていることが観察できる他，この例からはアジアがCOVID-19に限らずあらゆる病の根源として位置付けられていることが分かる．次に，(2)についてデータ例を見ていくが，投稿がアジアに関した内容である場合と，その他地域（特に西洋）に関した内容である場合で，「罰」の対象が異なる．下記は，コロナ禍さなかの中国で違法に営業していた屠殺場から，多くの犬が救出されたことを伝える投稿へのコメントである.

---

① (2)-a (2020年4月16日)
Will someone in a position of power blow China off the f**king map?? They all deserve to get this virus THEY created back in their faces....and die slow agonising deaths...just like they`ve bestowed on the entire planet. F**king weird, evil, shit sucking scumbags.

ここでは中国が，COVID-19を「作り出し」，故にウイルス並びに「ゆっくりとした，苦痛に満ちた死」を当然の報いとして受けるべき対象とされ，いわばウイルスによって「罰される」対象と位置付けられている．(2)-bでは，中国での犬肉消費を批判する投稿へのコメントであり，COVID-19が中国への「罰」「業（カルマ)」と説明されている.

---

① (2)-b (2020年3月13日)
Wonder if they're eating any dogs now, seeing that they were so disgusting the universe punished them with the Coronavirus 😏, KARMA is real!

このようにCOVID-19を「罰」「業」とするコメントはアジア以外の国／地域に関する投稿へのコメントにも見られる．下記のコメントはフェロー諸島での鯨漁を批判する投稿へのコメントである.

---

① (2)-c (2020年4月1日)
Is humanity crazy. This is why God is giving this pandemic virus.

先程の2例とは異なり，ここでは批判の対象及び「天罰」であるCOVID-19によって罰されるのは人類全体となっている．また，次の例はカナダ及びノルウェーにおけるアザラシ漁を批判する投稿へのコメントである.

---

① (2)-d (2020年4月12日)
maynthe corona virus victimized those people who will do this.. including their family! [sic]

民族／国民全体がCOVID-19によって「罰される」べき対象とされていた(2)-a，bとは異なり，ここでは「罰される」べき対象が漁従事者及びその家族のみに限定されている．次に，(3)の例を見てみたい．以下の例は，コウモリを売るインドネシアのウェットマーケットを批判する投稿へのコメントである.

---

① (3) (2020年4月27日)
We are suffering because that lady scientist cross breed bat virus with other viruses . Those people been eating bats for years. Covid19 was man made in a lab in wuhan

---

このように，COVID-19を「人工ウイルスである」「意図的に蔓延させられた」ものであるとするコメントは，特に時期①において多く見受けられた.

では，「アルファ型」が英国における主流株となった時期②ではどのような傾向が見られるだろうか．データ概要を先に述べておくと，感染症に言及した投稿・コメントが減少したこの時期においても，中国及びアジア諸国を"spreader"と位置

付けるコメントや，ウイルスが意図的／人工的に蔓延させられたものであるとするコメントは一定数見られた．また，この時期の主流株であった「アルファ型」の初期報告はイギリスでなされているが，イギリス及び周辺諸国を"spreader"として位置付けるコメントは見られなかった．このことは時期①におけるコメントの傾向と比較すると対照的である．下記の例は，野生動物のブラックマーケットがオンラインに移行したことを指摘する投稿へのコメントである．

---

② -a（2020年12月20日）
NICE WORK FACEBOOK ... NOT... All FB thinks about is profits and more profits... and making sure no one talks bad about the Chinese which are driving the market for extinction of so many creatures and frankly they are also taking over countries infrastructure and probably sent the virus out knowingly....

投稿内では特定の国名／地域名が明言されていないものの，上記コメントは中国に言及しているだけでなく，中国が「知っていてウイルスを送り込んだ」と述べられている．また，次期②では感染症に言及したコメントの総数が大幅に減少しているが，その中で「中国から新たな感染症が発生するだろう」という主旨のコメントが目立つ．下記の例は，センザンコウといった動物の中国への密輸が増加したことを批判する投稿へのコメントである．

---

② -b（2021年1月6日）
and still they keep that filthy business going, working on how to spread the next pandemic I guess

---

こうしたコメントは時期①にも見られたが，半年おいた次期②でも「ウイルスは人工のものだ／意図的に蔓延させられた」とするコメントが一定数見られることに留意したい．本章では，時期①及び②における感染症と民族／国への言及を含むコメントの傾向を実例を挙げながら見てきたが，こうしたコメントからどういったオンライン・ディスコースが（再）生産されるのか，また，感染症にどのような「意味」が見出され再生産されていくのかを次章で考察したい．

3. 考察

西山（2004）は，小説や映画，都市伝説など多様な媒体を扱いながら，いかにして「エイズ感染の物語（ナラティブ）」が同性愛者，女性（特に性産業従事者），移民といった人々のステレオタイプを利用しながら紡がれていったかを明らかにしている．西山によると，エイズ感染の物語は「感染源患者（スーパー・スプレッダー）」の究明を核としていることが多い．例えば，Shilts（1987）の『そしてエイズは蔓延した』などがこれにあたる．以下に西山（2004）からの抜粋を掲載する．

> 疫病が流行しても，目に見えない細菌だけでは，隔離と検疫という強制を人々に納得させることはできない．隔離という暴力を行使するには，見えない細菌の恐怖を体現する「感染源患者（スーパー・スプレッダー）」が必要になる．自分たちを被害者におきたい意識が，疫病を外から持ち込んでくる悪を呼び出すのである．（西山 2004；88）

時期①②に一貫して見られた，アジア諸国及びアジア人を「感染源」として強調する多数のコメントは，スーパー・スプレッダーの構築という点でエイズ感染の物語に合致する．また，興味深いのは，COVID-19を「天罰／業」とするコメントの多さである．西山によると，エイズはしばしば「自然の摂理に背いた同性愛者たちに対する神の罰」と見なされ，同性愛者の死には「自業自得」という意味が付された．本研究で収集したデータにも，アジア諸国における（エキゾチックアニマルの食用としての消費など）「野蛮な慣習」に対する報い或いは天罰がCOVID-19なのだ，とするコメントが多々見られた（①2-b参照）．また，「感染源」とされた地域が意図的にウイルスを蔓延させているというコメントも，エイズ感染の物語と一致する．西山の例を挙げるならば，女が男に故意にエイズをうつす都市伝説「エイズの世界へようこそ」などがこれにあたる．本研究でも，中国及びアジア諸国が故意にウイルスを生み出し／蔓延させているとするコメントがしばしば観察された（①(3)，②-a，b参照）．なお，①から②の時期にかけてCOVID-19に言及したコメント数には違いがあるものの，コメントの傾向は一貫していることに留意したい．つまり，「アルファ型」流行期である②では「感染源」たる地域が中国／アジアからイギリスに移行しているにも関わらず，スーパー・スプレッダーとして名指されるのは依然として中国／アジアである．

ではなぜ，時代も社会背景も大きく異なるエイズ流行期とCOVID-19流行期に，酷似したディスコースが見られるのだろうか．風間・河口（2010）は，異性間での感染の実例が確認されるまでエイズは「「健康な日本人男性」にとって無関係な存在」として構築されていたことを指摘している．エイズを「他者の病」とすることで「恐怖の原因から自分たちを無縁にし

て安心しようとする」試みである（西山，2004）．西山も引用するTreichler（1999）がエイズを「意味の伝染病（例えば「神の罰／試練」「異人種間結婚による遺伝子突然変異」「生物医学者とCDCの創造物」など）」と呼ぶように，COVID-19にも「動物への残虐行為の罰」「東洋が悪意により蔓延させる病」といった「意味」が見出され，不特定多数の書き手によって（再）生産されていく．投稿・コメントには西洋中心主義的ディスコースが数多く見られることは既に述べた通りだが，スーパー・スプレッダーとしてアジア諸国（及びその他非西洋地域）へのステレオタイプを強調し，上記のような「意味」を見出すことで，当該アカウントの団体が属する西洋社会は被害者として位置付けられる．その背景には，エイズと同様に「未知の病」であるCOVID-19を「説明」する物語を紡ぐことで，せめて心理的に制御して安心したいという欲求と，根強く残るアジア人嫌悪や外国人嫌悪など，感染症以前から存在するディスコースの姿がある．

4. 結論

本稿では，初期報告がなされた地域が異なるCOVID-19の2つの流行期におけるSNSの投稿・コメントの比較から，感染症の物語や意味がどのように構築されるかを考察した．今後はコメントの総数や内容と併せて，その時期の感染症をめぐる社会的動向を考慮する必要がある．例えば，感染症に言及するコメントが激減した2020年12月後半では，クリスマスに向けてイギリスで規制緩和措置がとられていたこと（後に一部地域で中止），アルファ型の流行を受け40か国以上の国々がイギリス発着のフライトを停止したこと，イングランド及びウェールズで感染者数が大幅に増加したこと（The Welsh Government, 2021）などがイギリスにおけるCOVID-19をめぐる動向として挙げられる．このうちいずれの要因がコメントの推移と関連したか特定することは難しいが，コメントの内容などから社会的背景との結び付きを読み解くことで，感染症の物語の性質へのより深遠な理解に繋がるだろう．

謝辞：本研究は大幸財団の人文・社会科学系学術研究助成を受けて行われた．

参考文献

BBC（2021）．「新型コロナウイルスの変異株はどこまでひどくなる？　限界はあるのか」https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-57710818

Flower, G., Carbury, R., Bracher, M., Fuller, L.（2023）．“Regional and sub-regional estimates of coronavirus（COVID-19）positivity over time, UK: 12 January 2023”．Office for National Statistics.

風間孝，河口和也（2010）．同性愛と異性愛 岩波書店

木場安莉沙，張応謙（2022）．オンラインディスコースにおける「文化批判」に見られる人種主義ーアニマルライツ団体の事例からー 社会言語科学会第47回研究大会発表論文集，79-82.

木場安莉沙，張応謙（2023）．オンラインディスコースの（再）生産過程と「人道主義」の中のヘイトーアニマルライツ団体の事例からー 社会言語科学会第46回研究大会発表論文集，26-29.

西山智則(2004)．エイズ感染の物語に感染しないために一疫病の政治学(2) 埼玉学園大学紀要人間学部篇，4，77-91.

Pearman, O., Boykoff, M., Osborne-Gowey, J., ...Ytterstad, A.（2021）．“COVID-19 media coverage decreasing despite deepening crisis”．*THE LANCET Planetary Health*, 5(1), E6-E7.

Treichler, P, A.（1999）．*How to Have Theory in an Epidemic: Cultural Chronicles of AIDS.* Durham and London: Duke PU.

The Welsh Government（2021）．“Coronavirus（COVID-19）infection survey: 27 December 2020 to 2 January 2021” https://www.gov.wales/coronavirus-covid-19-infection-survey-27-december-2020-2-january-2021-html